

復興大学 県民講座で研究成果を踏まえた講義を行いました (2017/10/14)

テーマ：災害の社会的影響、津波避難

場所：東北工業大学八木山キャンパス

URL：<http://www.fukkou-daigaku.gakuto-sendai.jp>

東北大学をはじめ、21の高等教育機関が参加する学都仙台コンソーシアムは、震災直後から「復興大学」として、被災地の復興のための種々のプログラムを提供してきました。2017年度からは復興人材育成のための講義を、一般の方にも受講できる「復興大学県民講座」として行うことになり、2017年10月7日(土)から2018年2月17日(土)までの15回の土曜日の午後に、7科目30講義が設定されています。当研究所からは、今村文彦所長(災害リスク研究部門)、遠田晋次教授(災害理学研究部門)、邑本俊亮教授、奥村誠教授(人間・社会対応研究部門)が合計7つの講義を提供することとしています。

2017年10月14日(土)には東北工業大学八木山キャンパスにおいて、奥村誠教授が「復興の社会学」として2つの講義を行いました。1つ目は「津波避難における自動車利用の問題」として、最適避難交通計画の最新の考え方、宮城県亘理町のネットワークにおける計算例、実現に向けての課題を講義し、他人の危険性を増やさずに避難する方法について考えていただきました。2つ目の講義では、「携帯電話位置情報データから見える災害の広がり」と題して、最近使用できるようになった位置情報ビッグデータの特徴を説明し、東日本大震災前後2ヶ月間の仙台市内の時間別人口分布から見た復興プロセス、および熊本地震前後2ヶ月間の熊本県民の時間別自宅、勤務先滞在率から見た震災影響の分析結果を示し、プライバシー保護を必要とする携帯電話位置情報データの使用に対する社会的な合意について考えていただきました。学生、一般を含め、35名の受講生が出席し、質疑も活発に行われました。



講義の様子